

『書き初め』に込めた想いは？

始業式の翌日と翌々日、1年生から6年生の教室では書き初め会を行いました。1、2年生は、フェルトペンを使って丁寧に、3～6年生は、「字形の整え方」、「文字の中心」、「名前の位置と大きさ」に気を付けながら、筆で丁寧に書くことを目標に取り組みました。



書き初めについての歴史は極めて長く、期限は平安時代までさかのぼると言われています。宮中行事が期限で、元日の朝に初めて汲んだ水（若水）で墨をすり、新年の縁起の良い方角（恵方）に向かって祝賀や詩歌を書いていたことに由来するそうです。

その後、江戸時代に寺子屋が普及したことにより、一部の庶民にも広がり、明治時代から義務教育で書道の教育とともに書き初めも広く普及していったと言われています。

書き初めの目的は本来、一年間の抱負や目標を定めること、字の上達を祈願することでした。現在は、前者の抱負や目標を書き、決意を強くすることが主となっています。

1年生『ふじ山』、2年生『元気にあいさつ』、3年生『友だち』、4年生『明るい心』、5年生『新しい風』、6年生『将来の夢』と、それぞれ想いを込めた書が児童玄関に掲示され、今朝は全校が学級ごとに時間を区切って鑑賞しました。

丁寧な字、勢いのある字、思い切りのよい字、柔らかな字、バランスのとれた字等、それぞれの作品から様々な受け止めができます。それぞれの学年が書いた字は同じですが、どんな想いをもって書いたかが大切です。

